

株式会社ヤマシタワークス

企業概要

○所在地:兵庫県尼崎市西長洲町2丁目6番18号 ○TEL:06-4868-8477 ○設立:昭和61年9月1日 ○代表者:代表取締役 山下 健治
○従業員数:135人(平成30年5月現在) ○資本金:1,000万円 ○E-mail:info@yamashitaworks.co.jp ○HP:http://www.yamashitaworks.co.jp
●事業内容:自動車部品用鋳造金型、薬品用金型製造販売、エアロラップ®販売・加工、医薬設備及び空調設備関連メンテナンス業務
●主要生産設備:NC旋盤、ミーリング機能付複合NC旋盤、型彫り放電加工機、鏡面仕上げ機、エアロラップ YT-300型 他

事業計画名

自動車産業向け金型及び製薬産業向け金型の多品種小ロット生産の効率化



自動車産業向け金型は、海外現地生産化と現地調達化が進んでいるため、日本国内における同金型には高精度かつ短納期が要求されている。これに対応できるよう、高精度かつ短納期にて生産できる体制を整える。

取り組みの背景

当社は主に自動車産業向けの金型製作を行ってきた。自動車産業では、為替リスクを回避するため海外現地生産・調達化が加速しており、それに対抗する日本製金型には、高難易度、高精度、短納期等の付加価値が必要となっている。高精度な製品を短納期で納品するには、生産性の向上が不可欠である。以前からワークライフバランスを重視していた当社では、工程を減らしてミスを減らし、労働時間の短縮を図りたいと考えていた。また、リーマンショック時に自動車業界からの受注が急減しており、別の業界で事業の柱をつくって経営リスクを分散する必要性を実感していた。

取り組みの目標

- 加工工数の削減
- 熟練を要しない高精度・短納期の実現
- 生産性向上による労働時間の短縮
- 事業のもう一本の柱の確立

取り組みの内容

旋盤加工の製品を鏡面仕上げする場合、らせん状の筋が残ってしまわないよう表面を滑らかにする研磨加工が必要であり、工程が多くなることから作業時間やミスが増える原因となっていた。そこで、NC工作機を導入し、旋盤加工→研磨加工→旋盤加工の工程を自動化することにした。自動化によって、段取り替えの際に誤差が生じる可能性もなくなり、精度を上げることもできた。実際にNC工作機を導入してみると、研磨加工工程が不要となったため生産性が大幅に向上し、作業時間の短縮を図ることができた。ただし、NC工作機では手作業のようにフレキシブルで微妙な力加減ができず、プログラムの調整に苦労が伴った。試行錯誤を繰り返してはデータを集めて最適な設定を模索し、ついには生産転用できるような設定条件を作り出すことができた。NC工作機導入によって、作業時間を短縮できただけでなく多台持ちも可能となった。これまでは機械1台に熟練技術者が一人ついている必要があったが、経験の浅い若い作業員でも2台同時に作業ができる。このため、若手の活躍が可能となっている。

同社の強み

- ・高精度かつバラツキのない安定した品質
- ・お客様の要望に応える技術と納期
- ・品質と納期からもたらされる信用力

ポイント

営業部門がないのに受注増



【高品質を支えるQC部】

当社の金型は、耐久性に優れ精度が高く、ばらつきのない安定した高品質を誇っている。その品質を、約20人の品質管理要員が100分の1ミリの厳しい検査で支えている。しかも短納期で納品していることから、取引先からの評価は高く、紹介によって新規取引先がどんどん増えていった。当社には営業部門がないにもかかわらず、受注は増加し続けている。NC工作機を入れることにより生産性が大幅に向上したため、受注が増えてもそれに対応することが可能となっている。

ワークライフバランスの実現

10年以上前から生産性向上の取り組みを行っており、まずはミスを減らすことに取り組んだ。具体的には、図面の裏に処理者の名前を書くことを徹底し、問題が起こった際にすぐ原因究明できるようにした。名前を書くだけであったが、工程の遡りができると原因の判明が早く、労働時間を短縮することができた。今回のNC工作機の導入によって生産性がさらに向上し、残業時間は激減した。受注が増え売上高が増えているにもかかわらず、労働時間は短縮している。平成26年度には「ひょうご仕事

と生活のバランス企業」を受賞した。

製薬業界という、事業の2本目の柱を確立



【薬品用金型】

お菓子のラムネの金型を製作した実績を有しており、これを応用すれば薬の錠剤も作ることができると考え、新たに製薬業界へ進出することを決定した。製薬業界では、まず研究所にて錠剤の試作を行い、その後工場で量産体制に入る。当社では研究所の細かな要望に応えることで錠剤の金型を受注することができ、工場への展開につながって大量受注が舞い込んでいる。製薬会社が多い大阪に近いという地の利も功を奏した。

さらなる生産性向上へ

今期は製薬業界からの受注が前期の4倍となり、さらなる生産性向上を迫られている。工場は手狭になっているが事業所が分散するとデメリットが大きいことから、現状の設備と人員で乗り切る方針である。そのため、設備配置や作業フローなどを見直して生産現場の最適化を行う。さらにIoT導入やロボット化を進め、管理部門ではIT化を推進して、今以上の効率化により受注増に備える予定である。

社長の声



株式会社ヤマシタワークス
代表取締役 山下 健治氏

挑戦と創造

当社は磨き技術で創業したのち、現在は切削・研削加工と組み合わせて高品質な金型の製造をしています。2005年にはタイに会社を設立し、国内外で売上拡大に向け相乗効果を生んでいます。技術力の源泉となっているのは、柔軟な組織文化だと考えています。ムダな会議をせず、朝礼などで必要な報告事項を済ませ、効率よく行います。社長室を設けず、自ら現場に出向き声を掛けたり、飲みニケーションを図ったりして、社員と共に楽しみ、風通しの良い職場作りに取り組んでいます。このような取り組みもあって地域未来牽引企業や黄綬褒章などの表彰を頂けるようになりました。現在では営業活動をしなくても、お客様がお客様と呼ぶ好循環となり、営業コストをかけずに済んでいますので、商品の価格を安くすることもできています。今後も生産効率化、工程管理、ITの活用など技術の向上も含め、新しい挑戦と創造を続けていきます。